

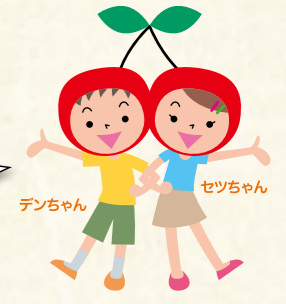
- P.2 県民の皆さまへ
- P.4 特集
- P.8 奏であう人
- P.16 やまがた伝説

新型コロナウイルス感染症関連情報
デザインが生み出す新たなものづくりのカタチ
本で地域や子どもたちを生き生きと
即身仏

デザイン思考を取り入れた66将棋
「なるこま」作りに携った皆さん
(撮影協力:東北芸術工科大学)

やまがた でん せつ 伝説 DENSETSU

僧侶が命がけで仏になった即身仏が
山形県に日本一多いのはなぜ?
ミイラとは全く違うんだって!



即身仏は、飢餓や病に苦しむ人々を救い、世の中の平穏を祈るため、僧侶が自ら命絶えるまで苦行を続け、そのまま仏になった姿です。日本には17体が残されていると言われています。そのうち、山形県内には、鶴岡市に4体、酒田市に2体、白鷹町、米沢市にそれぞれ1体と、計8体もの即身仏が祀られています。



即身仏になる修行は、まず必要最低限の木の实や山草だけを食べながら、1千~5千日かけて、死んでも体が腐敗しないよう脂肪分を落とします。その後、深さ約3mの石室に閉じこもって息絶えるまで断食し、お経をあげ続けます。絶命してから、3年3か月後に掘り起こされ、少しの手当を行い安置されます。海外のミイラは、遺体から内臓を取り出して乾燥・防腐など人工的に加工処理された寝姿が一般的で、生きながら自らの意志でその姿になる即身仏とは、大きな違いがあります。

山形県に、全国の即身仏の半分近くが集中しているのは、山岳信仰の聖地である出羽三山の一つ、湯殿山信仰と深く関わりがあるためです。実際に即身仏の多くが湯殿山で修業した僧侶といわれ、開山した弘法大師・空海に由来する「海」の字が付いています。即身仏を生んだ出羽三山は日本遺産にも登録され、山の自然と祈りの結びつきや、山形県の精神文化の豊かさを今に伝えています。



苦しい修業の末に悟りを開いた優しく温かなお顔をぜひお参りしてください

即身仏についてお話をお聞きした
伊藤 りつ子 さん
酒田市・海向寺 寺庭

悩みや苦しさが悪いことで、楽しいことが良いことは限りません。苦しいからこそ分かることがあり、優しくなれたり、大切なものに気付くことがあります。即身仏は、そのお姿を通して、私たちに苦しみを持つ意味を語りかけてくれます。

